近世の文学

教材のねらい

1 選定の理由

近世の文学から「おくのほそ道」三編、「玉勝間」一編を学ぶ。

「おくのほそ道」は古典の紀行文の中でも、日本人にとっての「旅の原型」を形作っているとも言える作品である。芭蕉は、旅と人生を一つと考えており、文学の伝統の中に身を置き、歴史と詩情とが渾然一体となった独自の世界を、俳文らしいリズム感で伝えている。冒頭の「旅立ち」は、死を覚悟して旅に生きようとした芭蕉の気概が表現された名文である。旅を通して、伝統的詩情を求めようとした芭蕉の思いを読み取ることができる。「平泉」では、平泉という歴史的空間に立った芭蕉が、自然の悠久さに対する人為のはかなさを詠嘆している。省略の多い緊迫した文の調べを味わいたい。「種の浜」では、ますほの小貝を拾う行為から、芭蕉の旅への思いを理解することができる。

「田舎に雅言の残れること」は、国学者である本居宣長が、自身の体験から、地方に昔の言葉が残っている事実について考察している。一年間で学習した古典の言葉と現代の言葉がどのようにつながっているかを考えさせることができる。

「単元の言語活動７　歴史を再発見し、随筆を書く」は、関心を持った古跡や伝統行事について調べた経験を随筆にして書かせ、昔の言葉や文化、歴史を学ぶことが自分たちの生きている時代について学ぶことになることを気づかせるねらいとした。

2 指導のねらい

「おくのほそ道」三編では、繰り返し音読することによって、省略や対句、あるいは漢詩文の引用などを多用した、俳文に特徴的な文体に慣れるようにする。必要な所は語句を補ったり、引用された古典を解説するなどして、理解を深めるよう配慮し、文意を正確に読み取るよう指導する。そのうえで、芭蕉がどのような人生観を持ち、「旅」を実践しようとしたのかを理解させたい。芭蕉が訪れたそれぞれの土地に対して、どのような感慨を抱いたのか、文章と発句のかかわりの妙を味わいながら鑑賞させる。

「田舎に雅言の残れること」では、一年間で学習した古典の言葉が現代の言葉がどのようにつながっているかを考えさせ、我が国の言語文化について自分の考えを持たせたい。

「単元の言語活動７　歴史を再発見し、随筆を書く」は、関心を持った古跡や伝統行事について調べた経験を随筆にして書かせることを通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持たせたい。

3 単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4 評価規準

学習指導要領との対応等	〔知識・技能〕							
	(1)ア	(1)ウ	(1)エ	(2)ア	(2)イ	(2)ウ	(2)エ	
評価規準例	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
旅立ち	○	○	○	○		○	○	
平泉	○	○	○	○		○	○	
古文の窓 6					○			
種の浜	○	○	○			○	○	
田舎に雅言の残れること	○	○	○			○		○
単元の言語活動 7	○							
文学と芸能			○		○			

〔思考力・判断力・表現力等〕						〔主体的に学習に取り組む態度〕
A (1) ア	A (1) イ	B (1) ア	B (1) イ	B (1) エ	B (1) オ	
「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	進んで人生と旅についての作者の考えを理解し、俳諧の修辞や古典を踏まえた表現など、作者の工夫を読み味わい、学習課題に沿って、作者の旅への心情を話し合おうとしている。
		○	○	○		○
		○	○	○		
		○	○	○		
		○	○			
○	○					
				○	○	

進んで芸能作品の歴史的・文化的背景を理解し、学習の見通しをもって、芸能作品への解釈を踏まえ、言語文化について自分の考えを持とうとしている。	○

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）

単元の言語活動７　歴史を再発見し、随筆を書く【〔思・判・表〕A(2)ア】